

AI等を利用した知財活動に関する研究

STEP 1 課題

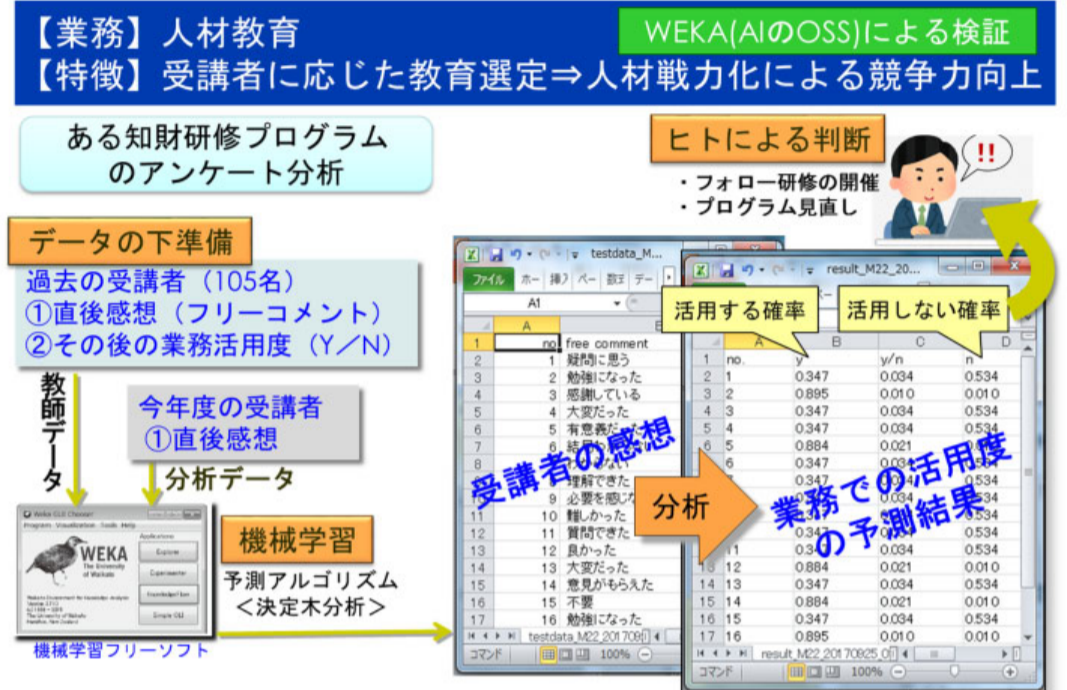
AI等の発展は、知財活動を通してビジネスに新たな価値を提供できる可能性を秘めている。そこで、**ポジティブな視点で知財活動へのAI活用**を検討する。また、AI活用に向けて準備すべきことや人材育成を考える。

STEP 2 検討

- ① **知財人材スキル標準**に則して、知財活動へのAI活用を洗い出し
- ② **新たな価値提供**の視点で「**知財活動 by AI**」を深耕
- ③ 「**知財活動 by AI**」の検証

STEP 3 アウトプット

- ① **ビジネスに新たな価値提供**ができる「**知財活動 by AI**」
- ② 実践に向けて準備すべきこと、必要な人材/スキル



「知財活動 by AI」の検証例

知財部からの情報発信のあり方の研究

STEP 1 課題

知財情報は、客観的データで構成されており、種々経営判断に極めて有益！
ビジネス環境の急激な変化（新潮流）の中で、知財部門は、**知財情報だけでなく、一般情報も取り扱うなど、情報発信に新たな手法が求められるのでは？**

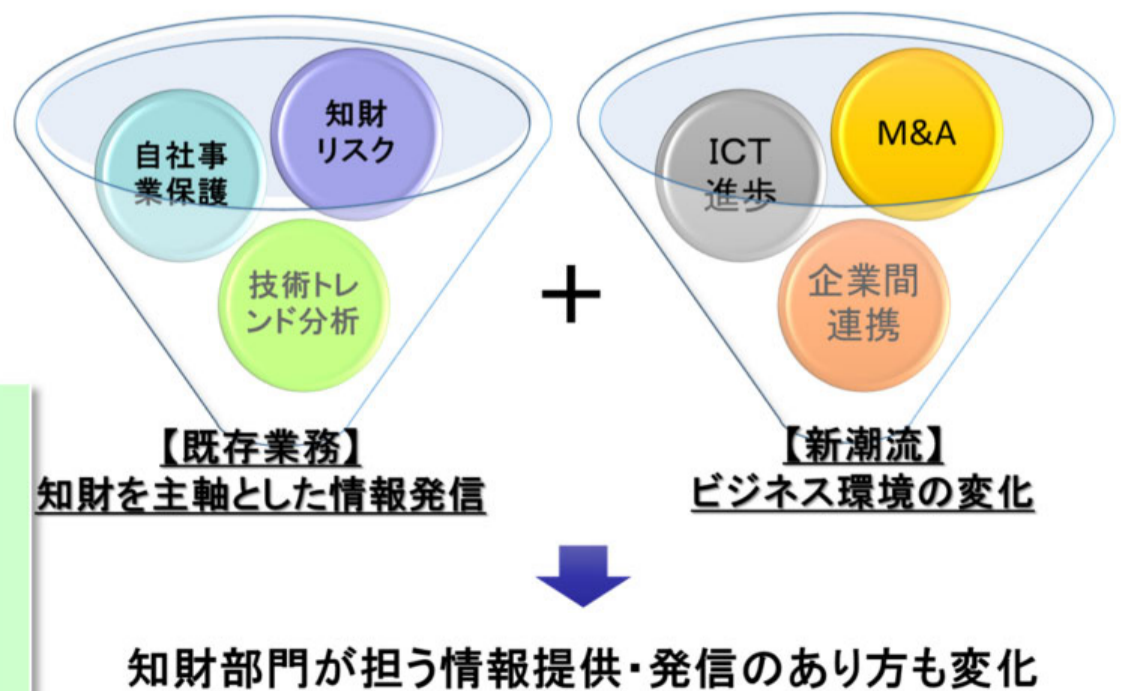
STEP 2 検討

「**新潮流**」に注目し、コンサル、先進企業に、“最新の情報発信”の実態に関するヒアリングを実施し、検討すべきポイントを抽出

STEP 3 アウトプット

検討すべきポイントを整理した結果
「**新潮流**」 = 「**攻めの情報発信**」の結論。

提言 「**攻めの情報発信**」とは…。



外国代理人事務所の 管理・連携・活用促進

STEP 1 課題



新興国も含めたグローバル出願率が向上し、**各国代理人との連携強化が重要。**

STEP 2 検討

業務量増加に関わらず社内のリソース強化は中々見込めない中での、
①連携体制の見直し（例えば、国内代理人経由、外国直接代理、等の
 類型ごとの将来あるべき姿）や、**②新たな連携策**（他国の審査に依存
 する代理人を如何に活用していくか）について整理・検討を行う。

STEP 3 アウトプット

将来、**新興国の出願が益々増加した際に、参考となる提言を**
 論説にまとめる。

出願国 (例示)	出願国の特徴	連携フェーズ		
		権利化体制の構築	権利活用	その他の活用
	自国で審査をちゃんとやっている	①先進国+新興国での権利化の体制検討	先行文献に記載、その応用が可能な範囲	
	他国の審査結果に依存		②代理人をレベルアップさせる仕事を検討	

ICT時代の知財戦略

～競争と協調における知財マネジメント～

STEP 1 課題

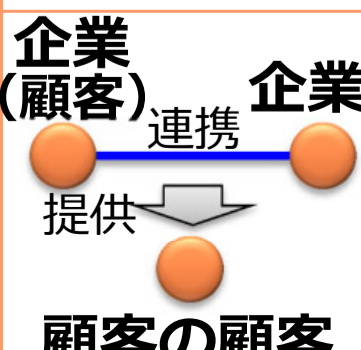
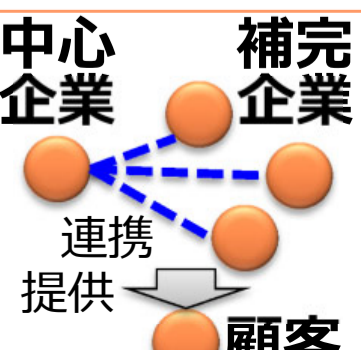
企業間協力による新市場開拓や新価値提供の広まり、**第4次産業革命の進展**に伴い、**協調関係の構築や維持に対応した知財マネジメント**へと変革する必要がある。

STEP 2 検討

- ①協調型ビジネスの把握とモデル化
- ②先進企業の取り組み分析
(アンケート、ヒアリング、特許調査)
- ③仮説検証と考察

STEP 3 アウトプット

「競争」と「協調」の関係が混在する環境下で、**プレーヤ毎の知財マネジメント**（特許群形成、知財活用、組織的取り組み等）を提言

観点	協調のパターン	
	共創	エコシステム
プレーヤ	1対1等の少数	中心企業と補完企業
設計思想	インテグラル	モジュラー
価値発生	連携単位	補完企業に大きく依存
モデル化		

グローバル知財マネジメントの研究

STEP 1 背景・課題

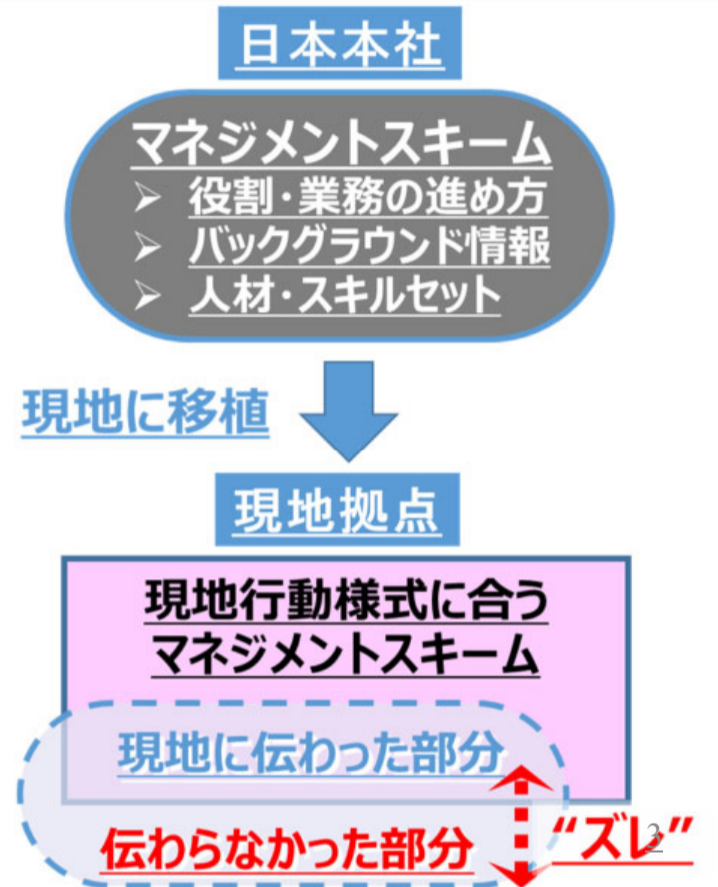
- 海外開発拠点における知財活動では**現地化対応**や**現地人材のマネジメント**が重要である。
- 課題認識として「現地に**期待する役割と実際の活動の“ズレ”**」および「適切な**人的リソースの配置&育成が困難**なこと」が挙げられる。

STEP 2 仮説・検討

- 日本が求める**マネジメントの移植**や**押付**が間違っているのでは？
- 最適なマネジメントは**現地役割**や**文化的背景**により異なるのでは？

STEP 3 アウトプット

- 現地知財マネジメントおよび知財人材のあり方について、
- **双方コミュニケーション**の円滑化
 - **異文化等を考慮**したマネジメントの視点から検討・検証し提言する。



グローバルな職務発明制度（戦略的な制度設計）

STEP 1 課題

日本の特許法が改正され、企業は報奨等の設計自由度が向上した。**グローバルな職務発明制度**を検討する良い機会になる。

STEP 2 検討

戦略的で効率的な職務発明制度として、①**グローバルで単一規程**を設けるか、②**ある部分は個別化する規定**とするかが、考えられる。

STEP 3 アウトプット

技術者の拠点間異動等を踏まえ、グローバルでの**職務発明制度の設計**について提案する。

戦略的で効率的な職務発明制度とは？



インセンティブとリスクヘッジ

ミッション（17年度）

2017年度委員数：88名（6小委員会）

活動：小委員会定例1回/月、全体会合年2回
正副委員長会合1回/月

(1) 我国の産業競争力向上のための施策についての調査・研究活動を行い、**政府等関連機関に提言すべき政策課題について検討し、適時発信する。**

(2) **企業の知財経営を推進するために有用な調査・研究を行い、実践的な情報、提言として発信する。**

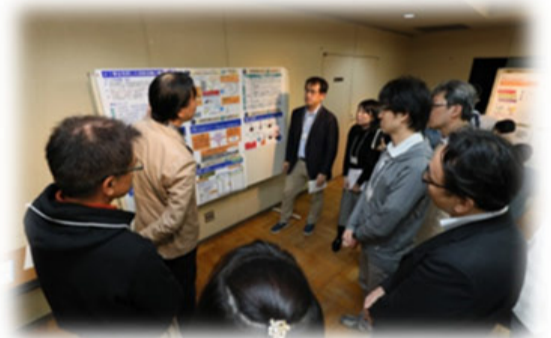
活動方針

1. ミッション(1)と(2)に関する調査・研究を**バランス良く**行い、**新たな視点から検討**を加え、**産業界のオピニオンリーダー**となれるような提言をする。

2. また、委員会参加メンバーが、活動を通じてそれぞれの日頃のマネジメント活動に有意義な知識、経験、人脈を得る。

委員会の活動紹介（中間全体会議の様子）

2017年10月13日-14日
高山市民文化会館にて開催



アウトプット

- ・知財管理誌への**論説**
- ・政府等への**政策提言**

委員会活動を通じて得られること

- ・人脈形成、他社・異業種の情報
→他の業界のマネージャーや有識者（大学教授）との意見交換
- ・特許庁、経産省、関連団体、海外の政策関係情報

2018年度テーマ候補

SDGs対応
知財ガバナンス

特許権の効力
第4次産業革命
と組織・人材

海外創出事業
技術者への
知財教育

社外への情報
意見・発信
働き方改革